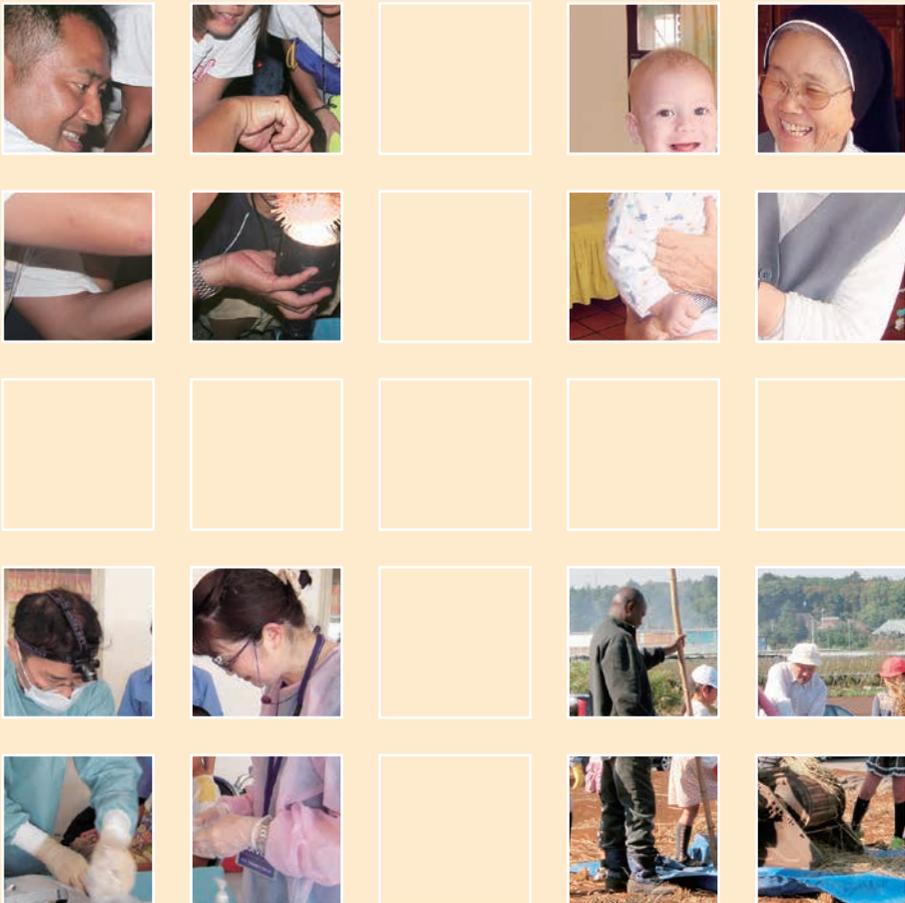


平成 26 年度

社会貢献者の記録



平成 26 年度

社会貢献者の記録

目次

まえがき	003
瑠子女王殿下のお言葉	004
表彰選考委員プロフィール	005
式典次第	006
会長挨拶	007
選考委員挨拶	008
受賞者代表挨拶	010
記念写真	011
表彰式スナップ写真	012
来賓祝辞・乾杯のご発声	020
祝賀会スナップ写真	022
社会貢献者表彰とは	027
受賞者手記 目次	028
人命救助の功績	030
社会貢献の功績	050
海への貢献の功績	122
資料編	130

まえがき

平成26年度の社会貢献者表彰式典を同年12月1日（月）、帝国ホテルにおきまして、瑠子女王殿下のご臨席を仰ぎ、安倍昭恵新会長のもとで600名を超える皆様のご出席をいただき開催、47件の受賞者の皆様を表彰させていただきました。

事業の助成をいただきました日本財団をはじめご協力を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。

さて、本年度は、お寄せいただいた136件の推薦の中から、選考委員会より選考されました「人命救助の功績」9件、「社会貢献の功績」（含東京都大島町における土砂災害時の救難活動、東日本大震災における復興活動）35件、「海への貢献の功績」3件の合計47件の皆様を表彰し、副賞の日本財団賞をお贈り申し上げます。

受賞者の皆様は、火災や事故などに遭遇し、自らの危険を冒して人命を救助されたり、事故を未然に防がれた方々、困難な状況の中で社会や人々の幸福のために尽くされた方々、海の環境の保護に尽くされた方々などで、その皆様の活動をここに記録集としてまとめさせていただきました。

このたびの表彰によりまして、受賞者の皆様の善行がより広く世の中に知られ、それにより世の中の善行活動がより豊かになることを願うものでございます。

受賞者の皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げますとともに、当財団の表彰事業につきまして、今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 社会貢献支援財団

瑤子女王殿下のおことば

寛仁親王の次女の瑤子と申します。

このたびは、第44回目を迎えられる、平成26年度社会貢献者表彰式典にお招きを頂きましてありがとうございます。

わたくしは今回初めてこの社会貢献者表彰式典にお招きを頂きましたし、父のように話がうまくはございませんので、大変恐縮ではございますが短い御挨拶をさせて頂きたく存じます。

今回136件の推薦の中から、人命救助の功績から9件、社会貢献の功績から35件、海への貢献の功績から3件、合計47件の個人及び団体の方々が表彰をお受けになると伺っております。受賞をお受けなった皆様おめでとうございます。そして惜しくも受賞には至らなかった皆様もご尽力頂きましてありがとうございます。

わたくしは、どんな事柄に於いても貢献という言葉というのは、大変難しい言葉だと思っております。何を以って貢献なのか、どこからが貢献で、どこからが貢献ではないのでしょうか。わたくしは学が無いので、はっきりしたことは申し上げられませんが、父と共に障がい者福祉活動をして参りましたなかで、また、父が亡くなって今もなお受け継いでいる身として思うことは、貢献とはそれぞれのなかにある気持ちなのではないのでしょうか。そして、その気持ちを持ち続け、繋げ広げていくことではないのでしょうか。

受賞した方々はより自信を持って頂き、惜しくも受賞されなかった方々も自信を失わずに自分が、自分たちが正しいと思ったこと、やらなくてはいけないと思ったことを、信念を持って続けていって頂くことが大切であり、意義のあることなのだと思います。

わたくし自身、父が行っておりました障がい者福祉活動というものを受け継ぎ、繋げ、広め、そして自分なりの思いを込めて今も活動しております。

今回受賞をお受けになった方々も、そうでない方々も、これからも皆様方の信念に基づき広め続けて行って頂ければ幸いに存じます。

簡単ではございますが、今後もこの社会貢献支援財団の活動が広まり、益々発展していけますことをご祈念申し上げ、わたくしの挨拶とさせて頂きます。



瑤子女王殿下

選考委員プロフィール



元財務大臣

塩川 正十郎

選考委員長

1921年生まれ

学校法人 東洋大学総長ほか

著書：「佳き凡人をめざせ」「ある凡人の告白」ほか多数



脚本家

内館 牧子

1948年生まれ

東京都教育委員会 教育委員ほか

脚本：「ひらり」「てやんでェッ!」「私の青空」「毛利元就」ほか多数



元国税庁長官

大武 健一郎

1946年生まれ

関西大学客員教授ほか

著書：「平成の税・財政の歩みと21世紀の国家戦略」「税財政の本道一國のかたちをみすえて」ほか多数



久米繊維工業株式会社 取締役会長

久米 信行

1963年生まれ

明治大学商学部講師

一般社団法人墨田区観光協会理事ほか

著書：「メール道」「ブログ道」(NTT 出版)「NPOのためのIT活用講座効果が上がる情報発信術」(共著)ほか



ノンフィクション作家

吉永 みち子

1950年生まれ

「モーニングバード!」コメンテーター

「あさチャン!サタデー」コメンテーター

著書：「気がつけば騎手の女房」「性同一性障害」「26の生きざま」ほか多数

式典次第

第一部 表彰式

10：30…開 式

- ・ 会長挨拶
- ・ 瑤子女王殿下のお言葉
- ・ 表彰選考委員挨拶
- ・ 表彰状並びに副賞の贈呈
- ・ 受賞者代表挨拶

12：00…閉 会

第二部 祝賀会

12：15…開 宴

- ・ 財団ロゴデザイン表彰
- ・ 来賓祝辞 乾杯のご発声

13：30…閉 会

協力 日本財団

(平成26年12月1日 於帝国ホテル東京)

会長挨拶

本日は、瑤子女王殿下の御臨席を仰ぎまして、社会貢献者表彰式典がこのように盛大に開催されますことを心より感謝を申し上げます。

この表彰式にあたりまして、表彰者をご推薦賜りました皆様、また助成を頂いている日本財団をはじめ、ご協力を頂きました関係各位に対しまして厚く御礼を申し上げます。

今回は47件の方が表彰をされ、本当におめでとうございます。皆様方の自らの命を顧みずに勇気を持った行動、そして長年にわたってのご活動ご努力に対しまして心より敬意を表します。

わたくしもここ何回か、この表彰式に参加をさせて頂くことがございました。毎回本当に素晴らしい活躍を全国でされている方がこんなにたくさんおられるのだと、日本というのは何と素晴らしい国なのだということを感じているところでございます。

当財団では昭和46年から、今回は44回を迎え、一万二千人もの方が表彰されています。わたくしも今回からこの事業に参加をさせて頂くことになり、身の引き締まる思いでいるところでございます。

わたくしは主人に付いて海外に出ることが最近増えました。どんな国に行っても、「日本というのは規律正しく、優しい、素晴らしい人たちがたくさんいる良い国ですね」という風に言って頂き、大変嬉しく思っています。勿論わたくしたちのところに近づいて来られる方で日本が嫌いだという方は、そもそも近づいて来られないので一部の方たちの意見かもしれないのですけれども、日本がそうして世界の中で高く評価されているということは、皆様方のような地道な活動をずっと続けて来られている方々のおかげなのだろうな、というふうにも思っております。

皆様のご活動を見て、多くの若者たち、子どもたちが「自分たちもあんなふうになんのためにになりたい、日本の国のためにになりたい」そういうふうになってくれたらいいなと思います。

皆様方の、今後益々のご健勝そしてこれからもこのような素晴らしい活動をお続け頂きますことをお願いをいたしまして、お祝いと感謝の挨拶とさせていただきます。

本日は、皆様本当におめでとうございます。



公益財団法人 社会貢献支援財団
会長 安倍昭恵

選考委員挨拶

ただいまご紹介に預かりました、選考委員の内館牧子でございます。

本日、塩川正十郎委員長がご欠席のために、わたくしが代理で選考過程を含めましてひとことご挨拶申し上げます。

本日、瑤子女王殿下の御臨席を賜わりまして表彰を受けられる皆様、本当におめでとうございます。

今年度は136件のご推薦がございました。それらに対し、わたくしたち選考委員は本当に白熱した議論、意見交換をいたしまして、そして47件の受賞に至りました。推薦の136件には全くと申し上げていいほど差はございません。そのため、そこから絞り込むというのは大変な作業でした。ただ、中学生から80代に至るまでの皆様が我が身の危険を忘れて人命救助や社会貢献に尽くして下さったという事実に対し、わたくしたちは少しでもお礼を申し上げ、そして皆様の行動を世間の多くの人に知っていただきたいという思いで懸命でした。

少し前のことになりますが、平成24年度の受賞者の言葉が今も強烈にわたくしの記憶に残っております。一件は岩手県の大槌町消防団第二分団長の言葉です。第二分団では東日本大震災の津波や火災から人々を守るために、それこそ火の中水の中で人命救助の活動をなさいました。もちろん、自分たちも酷い被害に遭っているにもかかわらずです。そのときここで表彰を受けられた小國峰男分団長は「助けてといわれたら、誰だって放ってはおけないでしょう」ということを仰っています。それから同じく平成24年でしたけれども、ご自分の命を落とされて、他の方の命を救ったという、宮城県女川町の佐藤充さんのお兄様が代理でいらっしゃいました。その時お兄様は「日本人なら誰でもやることで、死んだ弟だけをどうこういわれることではありません」と仰ったのです。わたくしは本当にこのお二方の言葉には心打たれましたし、驚きました。

そして、この気持ちはおそらく日本人に限らず、世界中の人々の心と重なるのではないか、ということを感じます。今年も人命救助の功績で表彰される方の中には、中国人留学生もいらっしゃいます。日本在住のルーマニア人の方もいらっしゃいます。そして毎年、やはり外国の方が表彰を受けております。人間は誰も「助けて」といわれたら放ってはおけないという心というものを持っているのだと感じます。また遺族はいざとなれば「誰でもやることです、わたくしたちだけがどうこう言われることではありません」ということを仰って、助かった相手を思いやるものなのだなという



ことを実感いたしました。

実際かつて、走ってくる電車をものともせず、ホームから飛び込んで日本人の女性を助けた韓国人留學生がいらっしゃいました。そのかたもお亡くなりになったのですけれども、やはりご両親様は同じようなことを仰っておられます。

今日ここにお集まりいただいた皆様、そんなお心に対して報いることはとても出来る事ではありませんが、以前から曾野綾子元会長が仰っていたことを、わたくしは今日ここであらためて、皆様に申し上げたいと思います。

曾野会長はいつも仰っていたのですけれど、「今回の賞金は人のため社会のために使わず、ご自分や共に力を尽くすスタッフ、グループとともにお使ください」ということです。皆様で美味しいものを召し上がって頂くとか、スタッフみんなで温泉に行ったりゆっくり骨休みをするとか、事務所のリフォームをするとか、そういったことにお使い頂きたいということを、曾野会長は毎年仰っていました。

是非皆様もお好きな様に、自分たちのためにお使い頂きたいと思います。それは決して道に外れたとか、ルール違反だとかいうことではございません。そうではなく、それはまた明日からもっと頑張ろうという皆様の原動力になるものと思います。そうであればわたくしたちもどれほど嬉しいか分かりません。

47件の受賞者の皆様に改めて感謝を申し上げますとともに、今後ともどうか人々のために、そして社会のためにお力をお貸しください。社会貢献支援財団も微力ながら皆様と一緒に歩いてゆきたいと願っております。

皆様ありがとうございました。

公益財団法人 社会貢献支援財団
選考委員 内 館 牧 子

受賞者代表あいさつ

本日は、「社会貢献者表彰」を受賞し、又、皆さまの代表として、ご挨拶させていただき私は、幸せでございます。

受賞者皆さま方に代わり厚く御礼申し上げます

又、関係者ご一同様にも心から感謝申し上げます。

私ども、広島いのちの電話は、開局26年目を迎えましたが、開局までの準備期間は、7年と言う大変な苦しい歳月を要し、33年間の長きにわたり私はこの活動に関わり、約37万件近くの相談を受けて参りました。

戦前、戦後を経て生き続けてきた私は、大正生まれの88歳で今も現役の理事長として日々活動を続けております。

さて私達の住んでいる日本では毎年3万人近くの方が自殺で亡くなっておられます。

一昨年、15年ぶりに3万人を下回りましたが、依然として深刻な状況である事には変わりありません。広島県だけで600人を超える方が自殺で亡くなっています。そして、昨年私どもには1万6千件、1日平均50件程の電話がかかり、そのうちの15パーセント程の方が自殺をほのめかします。相談内容は病気、介護疲れ、失業、離別等様々です。

私ども広島いのちの電話は、こうした深刻な状況に対する一助になればと願い24時間、365日の「眠らぬダイヤル」として、孤独の中にあつて死を訴える人々を電話線一本でご支援し援助して参りました。「死ぬしかない」と考えている人の心の中のものひとつの声「でも生きたい」という気持ちをしっかり受け止めて、掛けてこられた方が「やっぱり生きていたい」と思えるようになるまで寄り添い、支え続けています。

昔から、「命あつてのものだね」と申します。元気に「生きる」と言う希望を持ち続ける事は大変な事ですが、それ程いのちは大切なのでございます。私どもは、正に「死から生へ」の心の再生を願い、日夜、傾聴活動を続けております。

尊い生命が自死によって失われる事の無いようにと言う大変に重たい使命を現在150名の相談員により支えられております。

行政からの支援も乏しく、これまで地域の多くの方々のご支援、ご寄附によって支えられて参りました。現在、多くの課題もありますが只今は、出来るところまで心を込めて頑張ろうと一同で励まし合っております。

より良い人生を求めて活動を続ける「市民のための市民によるボランティア団体」である広島いのちの電話の使命は、専門家ではなく訓練された相談員が良き隣人として寄り添うところに意味があります。社会情勢がますます厳しい中、広島いのちの電話の活動が認められ表彰をいただきます事、私ども同志一同、たくさんの勇気をいただき喜び合っております。

今後とも皆さま方の温かいご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

最後になりましたが「社会貢献支援財団」様の益々のご発展と皆さま方のご健勝をご祈念申し上げまして受賞者代表の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました



社会福祉法人 広島いのちの電話
田宮 トシエ

記念写真



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------------|-------|-------|-----------|--------|----------|------------|------------------|----------------------|--------|--------------------------------|----------------|------------------|---------|-----------|----------------|----------|---------------------|--------|-------------------|----------|--------|-----------|-----------|-------|-------|-------------|------|------|-------|
| 佐藤 和哉 | サンドウヨソツ | 湯浅 龍斗 | 山田 泰聖 | 井関 千颯 | 吉野 優也 | 近藤 啓郎 | 梅沢 清一 | 森上良自主防災会 | 山口 靜子 | 巖 俊 | 北川 よし子 | 小崎 緑 | 近藤 潤哉 | 古宇利 真利子 | 古宇利 春季 代理 | 仲宗根 勇生 | 仲宗根 弘 代理 | | | | | | | | | | | | | |
| 坂爪 真吾 | ハットハンス | 奥田 知志 | 小俣 智子 | 水谷 和孝 | 吉田 喜重 | 伊藤 洋 | 香川 福徳のちもたら | 藤田 裕喜 | 藤田 孝子 | 久田 光政 | 博災者応援協会のボランティアセンター | 宇都 幸子 | 阪神臨海部 阪神支店ネットワーク | 武田 英之 | がなほつとエリ | 市村巨然塾 九州 | 相乗 幸信 | 上藤江三つぎ家族会 「淡河町」メンバー | 谷口 仁史 | NPOスチエータ サポートセンター | | | | | | | | | | |
| 高見 陽子 | ウィメンズセンター大阪 | 鬼 三三 | 島壽 一明 | 母なる浦をを守る会 | 神田 優 | 黒潮東経センター | 関口 雄三 | 心あると東を志 考える実行委員会 | 白谷 憲生 | ゆの木福祉会 | 山本 春江 | 日本歯科ボランティアセンター | 宇佐川 照孝 | 宇佐川 秀子 | 青木 崇史 | ボルネオ保全リスト シヤビリ | 芹澤 出 | 野菊社 | 小川 恵美子 | ソルトバヤラス | 名ノカレセンター | 齋藤 望 | | | | | | | | |
| 松山 倫政 | | 菅原 康雄 | 福住町内会 | 中島 真由美 | 太極拳社協会 | 高橋 厚 | りひんシニア | 樽角 カネ | フジの力リタス修女会の 邦人スタッフたち | 米谷 新 | ボランティアオカル イエの力リタス修女会の 邦人スタッフたち | 田宮トシエ | 広島のいのちの電話 | 安倍 昭恵 | 会長 | 蓮田 太二 | 慈恵病院 | 田尻 由貴子 | 慈恵病院 | 久保田 英朗 | 慈恵病院 | 河野 伸一郎 | ほかいどうランポポ | ほかいどうランポポ | 高橋 義男 | 武田 純子 | おきなわCAPセンター | 長田 清 | 早坂 潔 | 浦河への家 |

表彰式

















来賓祝辞・乾杯のご発声

ご紹介を受けました、日本財団の笹川でございます。

本日受賞された皆様方、本当におめでとうございますと申し上げますよりも、本当にご苦労さまでございます。おひとりおひとりのお働きの経過をお聞きしまして、本当にこの無私の心で皆様方が当たり前だと思っておられることを、当たりまえにおやりになる、これがわたくしは日本人の心であり、日本の力ではないかという気がしみじみいたしました。



我が日本国が、様々な困難を抱えております今日に於きまして、皆様方のこの草の根の力強い力というものが、さらに人々に感動を与え、人々に「わたくしたちも何かしなければいけない。この社会に生を受けた以上やはり隣人のために何かしなければいけない」そういう気持ちに多くの人になるための、皆様方は貴重な実践とそして発信力をもつお方でございます。

本当にわたくしも世界120ヵ国以上回っておりますが、安倍会長が仰られたように、こんな素晴らしい国は世界どこへ行ってもありません。それは、経済が単に栄えて社会生活が豊かになるというだけの話ではありません。皆様方がお伝え下さっている、本来日本人が持っているそういう日本人の優しい心、そして優しい心を通じた人間の絆を強化してゆく、そういう素晴らしい根がまだ日本には数多く知られていない所で残っていることを、わたくしは毎回この会に出させて頂いて痛感をいたしております。皆様こそこれからの新しい日本を創っていく、素晴らしい伝統と文化とそしてその基になる日本人の精神というものを、何も立派な本を読まなくとも、個人個人の心の中から自然に発露されていく。本当に素晴らしいことだと思いますし、感動を頂きました。

わたくし自身ももう76歳でございます。一年の三分の一、海外で仕事をさせて頂いておりますが、これも毎回わたくしはこの会に出て、そういう力強い勇気と激励とそして、まだこれじゃだめだな、ということ、背中を皆様方に押されている感じがするわけでございます。本当に重ねて御礼を申し上げますと同時に、どうかひとつ皆様方のお仕事をどんどん地域社会の中で広げて頂いて、ひとりでも多くの賛同者を広げていくということが、この日本全体を、経済もちろんそうですが、心豊かな国民として世界に誇れる日本人というものを更に強化してくための、皆様方はその旗手であり指導者であるということ、ぜひお心に留めて頂きまして、また明日からお力添え

を頂きたいと思っております。

それにいたしましても、この安倍会長を筆頭に社会貢献支援財団がこのような素晴らしい活動をしている方を発掘してくださり、慎重に審査をして頂いた役職員、評議員、理事の先生方のお力無くして今日は無かったわけでございまして、高い所からではございますが、安倍会長をはじめ、評議員、理事、そして役職員の皆さんに厚く御礼を申し上げます。このような仕事にご協力をさせて頂いているということは、日本財団にとりましても大きな誇りでございます。

厳粛な儀式も無事終わりましたので、和やかなご歓談を頂きたいと思えます。
ありがとうございました。

それでは、受賞なされた皆様方、そしてご臨席賜りました多くの皆様方のご健康ならびにご多幸、そしてこの社会貢献支援財団からこの日本の心を更に広げていくための活動の拠点になられるように、そしてまた表彰された皆様方の更なるご活躍を祈念いたしまして杯をあげましょう、乾杯。

おめでとうございます。

日 本 財 団
会 長 笹 川 陽 平

祝賀会







